絵本「戦争のつくりかた」丹下さん、関根さんアニメ化

「戦争のつくりかた」という絵本がある。有事法制の是非が議論されたた2004年、法案に疑念を持った「りぼん・ぷろじぇくと」が制作し、話題となった。今冬、映像作家の丹下紘希さん(47)らが約7分の短編アニメーションに進化させた。日の丸を背に手に銃を持ち、目に絶望をたたえた兵士の姿が、私たちに訴えることは何か。映像で描かれた「日本のひとつの未来像」だ。

〈西村 綾乃〉

時代の正体 民主主義考

未来つくり出す一歩

映像ディレクターの関根光才さん(左)は世界三大広告祭の一つ「カンヌ・ライオンズ」で06年に新人監督賞を受賞。食品、スポーツメーカーなどの広告作品を数多く手がける日本を代表する一人。映像作家の丹下紘希さんは、ロックバンド「ミスター・チルドレン」のヒット曲「GIFT」「君が好き」など数多くのミュージックビデオを制作。アーティストからの信頼は厚い。

「りぼん・ぷろじぇくと」の活動に共感していた丹下さんは昨年、10年ぶりに絵本を開いてみた。秘密保護、後方支援、変わる憲法…。今まさに大きなニュースとして騒がれていた話題が物語の中に詰まっていた。「日本は戦争に向かう準備をしている。胸のざわめきを、東日本大震災後に旧来の価値観にとらわれず、これまでと違う視点を持って生きていたいと立ち上げた「NOdd1N(ノディインン)」のメンバーに打ち明けた。「違和感を忘れないため映像化しようこと、約40人とともに短編アニメを作るプロジェクトが動きだした。

◇監視し合う世界に

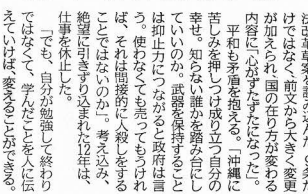
〈あなたは戦争がどういうものか、知っていますか〉

冒頭のナレーションは静かに問いかける。子どもに語りかけるように、分かりやすくひとつの国が戦争に踏み込んでいく過程を描いていく。

例えば。国を守るために存在していた自衛隊が、「世界の平和を守るため」「戦争で困っている人を助けるため」と武器を持ち他国に出向くようになる。

戦争をすると決まればテレビやラジオ、新聞は政府が発表した通りのことを伝え、都合が悪いことは言わなくなる。真実は闇に、お互いを監視し合う世界に変わる。

〈みんなの国が戦争をするときには、お金をあげたりもします〉



短編アニメ「戦争のつくりかた」の一場面

メッセージには米軍が構えた銃口に、弾が硬貨を入れる姿を重ねた。弾に変わったコインは敵に放たれ、血しぶきになる。

10月1日には「防衛装備庁」が設置され、武器輸出が可能になった。丹下さんは「特定秘密保護法とセットで動くようにだけれど、僕らの知る権利も奪われてしまう」と危機感を強める。

◇芸術にできること

「経済発展」「国際貢献」という言葉の陰にあるものは何か。丹下さんは04年、沖縄にある在日米軍海兵隊の基地キャンプ・シュワブを訪れた。基地建設反対の声を上げ続ける人の姿を見て、「戦争を経験したおじいや、おばあたちが僕らに残したものは何か。見つけたい。分かりたい」と思った。

この世界がどうやってできているかの解き明かしした。真っ先に疑ったのは自分自身のことだった。自己否定ではなく、物事を既成概念にはめてはいないか自問自答した。政治に疑問を持ったり、何か発言したりすると過激と思われる現実があるからだ。

「バカは黙っていろ」と言われば、メッセージは米軍が構えた銃口に、弾が硬貨を入れる姿を重ねた。弾に変わったコインは敵に放たれ、血しぶきになる。

10月1日には「防衛装備庁」が設置され、武器輸出が可能になった。丹下さんは「特定秘密保護法とセットで動くようにだけれど、僕らの知る権利も奪われてしまう」と危機感を強める。

◇芸術にできること

「経済発展」「国際貢献」という言葉の陰にあるものは何か。丹下さんは04年、沖縄にある在日米軍海兵隊の基地キャンプ・シュワブを訪れた。基地建設反対の声を上げ続ける人の姿を見て、「戦争を経験したおじいや、おばあたちが僕らに残したものは何か。見つけたい。分かりたい」と思った。

この世界がどうやってできているかの解き明かしした。真っ先に疑ったのは自分自身のことだった。自己否定ではなく、物事を既成概念にはめてはいないか自問自答した。政治に疑問を持ったり、何か発言したりすると過激と思われる現実があるからだ。

「バカは黙っていろ」と言われば、仕事を休止した。

「でも、自分が勉強して終わりではなく、学んだことを人に伝えていけば、変えることができる。多くの人は戦争をするということが頭の中で直結できないでいる。忙しい、難しい、面倒くさい。だけど無関心であることが一番の問題。映像作家である私たちは、人に目を向けてもらうための力がある。闇の中で見えた希望を信じた。

◇まるで「黙示録」

映像の総合監督を務めた作家の関根光才さん(39)は丹下さんから受け取った絵本を開いたとき「黙示録だ」と驚いた。映像にあたり、絵本を28のパートに振り分け、40人のクリエイターに話を重ねた。「それぞれ自分の問題として考えてほしい。作家たちから出てくる答えに寄り添った。

そのためタッチが違うアニメーションが連続するが、結果的に「人を殺したくない」「人を殺ろう世界はイヤだ」と一人一人の心の叫びがバトンのようにつながり、共鳴していく。「絵本ということを忘れないように、具体的な描写は避けた。見る人それぞれに想像してもらうためにも、言葉は選んだ。

◆有事法制 七つの法律から成り、国民の安全確保・救援のための国や自治体、公共機関の役割を規定。国民の財産の強制収用、民有地や家屋の使用、食品や医薬品などの物資保管で知事に強制権があり、違反者には罰則も科す。大規模テロに適用する、2004年制定。

◇監視し合う世界に

〈あなたは戦争がどういうものか、知っていますか〉

冒頭のナレーションは静かに問いかける。子どもに語りかけるように、分かりやすくひとつの国が戦争に踏み込んでいく過程を描いていく。

例えば。国を守るために存在していた自衛隊が、「世界の平和を守るため」「戦争で困っている人を助けるため」と武器を持ち他国に出向くようになる。

戦争をすると決まればテレビやラジオ、新聞は政府が発表した通りのことを伝え、都合が悪いことは言わなくなる。真実は闇に、お互いを監視し合う世界に変わる。

〈みんなの国が戦争をするときには、お金をあげたりもします〉

メッセージには米軍が構えた銃口に、弾が硬貨を入れる姿を重ねた。弾に変わったコインは敵に放たれ、血しぶきになる。

10月1日には「防衛装備庁」が設置され、武器輸出が可能になった。丹下さんは「特定秘密保護法とセットで動くようにだけれど、僕らの知る権利も奪われてしまう」と危機感を強める。

◇芸術にできること

「経済発展」「国際貢献」という言葉の陰にあるものは何か。丹下さんは04年、沖縄にある在日米軍海兵隊の基地キャンプ・シュワブを訪れた。基地建設反対の声を上げ続ける人の姿を見て、「戦争を経験したおじいや、おばあたちが僕らに残したものは何か。見つけたい。分かりたい」と思った。

この世界がどうやってできているかの解き明かしした。真っ先に疑ったのは自分自身のことだった。自己否定ではなく、物事を既成概念にはめてはいないか自問自答した。政治に疑問を持ったり、何か発言したりすると過激と思われる現実があるからだ。

「バカは黙っていろ」と言われば、仕事を休止した。

「でも、自分が勉強して終わりではなく、学んだことを人に伝えていけば、変えることができる。多くの人は戦争をするということが頭の中で直結できないでいる。忙しい、難しい、面倒くさい。だけど無関心であることが一番の問題。映像作家である私たちは、人に目を向けてもらうための力がある。闇の中で見えた希望を信じた。

◇まるで「黙示録」

映像の総合監督を務めた作家の関根光才さん(39)は丹下さんから受け取った絵本を開いたとき「黙示録だ」と驚いた。映像にあたり、絵本を28のパートに振り分け、40人のクリエイターに話を重ねた。「それぞれ自分の問題として考えてほしい。作家たちから出てくる答えに寄り添った。

そのためタッチが違うアニメーションが連続するが、結果的に「人を殺したくない」「人を殺ろう世界はイヤだ」と一人一人の心の叫びがバトンのようにつながり、共鳴していく。「絵本ということを忘れないように、具体的な描写は避けた。見る人それぞれに想像してもらうために、言葉は選んだ。

◆有事法制 七つの法律から成り、国民の安全確保・救援のための国や自治体、公共機関の役割を規定。国民の財産の強制収用、民有地や家屋の使用、食品や医薬品などの物資保管で知事に強制権があり、違反者には罰則も科す。大規模テロに適用する、2004年制定。

国に命をささげることを美徳とした大戦前の日本の姿が透けて見える。平和を追求するため、それを脅かすものを排除する。"国のために"何をするべきか。多様性や意思を持つべき国の邪魔になる。画一的なロボットを育てるために変わる教育の中で、子どもたちは自の色を失っていく。

繰り返される戦火。関根さんは「残念だけど、戦争は絶え間ない行為」と言う。11月にはウクライナ・パリで同時多発テロが起き、1・20人以上の市民が命を落とした。大事な人を殺され、嘆き悲しむとき、同時に憎しみも生まれる。「憎しみを武器で返しては争い続けるだけ。守りたいものを守り続けるために大切なものは日常を続けること。それは無関心でいることではなく、対話の始まり。おかしいと感じたとき、『おかしい』と言える空気を変えたい。僕たちもぶつかり、迷いながらやっていきます。悩むけれど向き合わないよりはいい」

〈みんなたちは、未来をつくりだすことができます。戦争しない方法を、えらびとることも〉

そう締めくくられたアニメは12月中旬から「戦争のつくりかた」の公式サイト(https://noddin.jp/war/)で無料公開される。

1月末、関根さんのコメント動画はウェブサイト「カナロコ」に

1月末、関根さんのコメント動画はウェブサイト「カナロコ」に